

くすりのしおり

注射剤

2024年04月改訂

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

製品名：テモダール点滴静注用 100mg

主成分：テモゾロミド(Temozolomide)

剤形：注射剤

シート記載など：



この薬の作用と効果について

腫瘍細胞の増殖を抑え、抗がん作用を示します。

通常、悪性神経膠腫、再発または難治性のユーイング肉腫の治療に用いられます。

次のような方は注意が必要な場合があります。必ず担当の医師や薬剤師に伝えてください。

- ・以前に薬や食べ物で、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。出血傾向、腎障害、肝障害、感染症、水痘がある。
- ・妊娠、妊娠している可能性がある、授乳中
- ・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・あなたの用法・用量は（：医療担当者記入）
- ・通常、90分間かけて静脈から点滴します。
初発の悪性神経膠腫：放射線療法と併用し、通常、成人は1日1回42日間注射し、4週間休薬します。その後、本剤単独にて、1日1回5日間注射し、23日間休薬します。この28日を1クールとします。
再発の悪性神経膠腫：通常、成人は1日1回5日間注射し、23日間休薬します。この28日を1クールとします。
再発または難治性のユーイング肉腫：イリノテカンと併用し、通常、1日1回連日5日間注射し、16日間以上休薬します。これを1クールとし、注射を繰り返します。
- ・具体的な使用期間については、担当の医師にお聞きください。

生活上の注意

- ・医師の指示を守って定期的に血液検査を受けてください。
- ・妊娠する可能性のある人は、この薬の使用中小および使用終了後6ヵ月間は適切な方法で避妊してください。
- ・男性は、この薬の使用中小および使用終了後3ヵ月間はバリア法（コンドーム）を用いて避妊してください。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、倦怠感、頭痛、貧血、吐き気、嘔吐、食欲不振、便秘、下痢、疲労などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・貧血症状、発熱、出血傾向 [骨髄機能抑制]
- ・発熱、咳、痰 [ニューモシスチス肺炎、感染症]
- ・発熱、から咳、呼吸困難 [間質性肺炎]
- ・頭痛、嘔吐、片麻痺 [脳出血]
- ・呼吸困難、蕁麻疹、眼や口唇周囲の腫れ [アナフィラキシー]
- ・全身倦怠感、食欲不振、皮膚や結膜などの黄染（黄色くなる） [肝機能障害、黄疸]
- ・発熱、中央に浮腫を伴った紅斑（赤い発疹）、眼球粘膜の充血 [中毒性表皮壊死融解症、皮膚粘膜眼症候群]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法 その他

医療担当者記入欄

年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、「患者向医薬品ガイド」、医療関係者向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。

SI①